

第2回広域まちづくりモデル調査検討会での意見等について

日 時：平成29年3月8日（水）10：00～11：45

場 所：富山県庁4階大会議室

1 地元代表のご意見

1-1 モデル地区①（富山）

- ・現状は、周辺の公共交通機関が貧弱であり、マイカー頼みとなっている。千成団地など住民の高齢化もあるので、新駅を設置してもらわなければならないと考えている。
- ・ここに新駅をつくることは、子供はもちろんこれからは大人の移動手段の確保の観点や、職場環境、環境問題などの観点からも、富山市としても大事ではないか。
- ・県有地は県民の共有財産であり、このまま放置しておくのは問題だと考える。早く活用してほしい。
- ・まずは一日も早い駅の建設をお願いしたい。駅ができれば、周辺に商業施設、住宅や公共施設が立地するものと考えている。
- ・新駅の位置は、線路を挟んで行政区が広田と豊田にわかれており、本当に行き来が無い。このため、行き来するには跨線橋か、ほかの方法はないかという話を進めているが、お金がかかる話であり結論がでていない。これを機会に、交流を盛んにしてどちらでも自由に行けるようにしてほしい。高齢者の安全面からも跨線橋が必要だ。

1-2 モデル地区②（高岡）

- ・モデル地区の南側は市街化区域と市街化調整区域の境界が不整形なので、できれば下伏間江福田線まで市街化区域を広げてほしい。
- ・市街化区域が広がった場合の土地利用は、住宅地は既に整備されているので、商業や小さな工業などがよいと思う。
- ・また、高岡やぶなみ駅を地元だけでなくもっと西側の方々の利用を考え、駅周辺に小規模なパークアンドライド駐車場が必要ではないかと思う。
- ・現状、高岡やぶなみ駅から下伏間江福田線まで南北に繋がる道路は、幅5m以下の道路が1本あるだけなので、これを結ぶ幹線道路があった方がよいと思う。

1-3 モデル地区③（射水）

- ・当地区周辺は、他のモデル地区とは違い、豊かな自然環境にあるが、将来、地域の存続ができるのかとの思いも強く、各々の集落を守るためにも何とか地区を活性化したいと考えている。
- ・太閤山ランドは、地域の貴重な資源として、永く県を代表とする公園としてあり続けてほしい。
- ・大学や研究機関などの学生や関係の方々にも地域に愛着を持ってもらい、射水市内での就職や定住につながる仕掛けづくりが大切と考えており、交流の場、集いの場をさ

らに充実することで全体の住みよさや魅力が一層高まることを期待している。

- ・インターパーク周辺では、今後も、物流関連等の施設や業種が立地することで、さらなる雇用に繋がることを期待する。
- ・J E T跡地周辺については、企業の地域貢献、地域の交流の場として、地域との融和や交流につながる土地利用を図ることも必要ではないか。

2 委員のご意見

2-1 モデル地区①（富山）

- ・現地を見て、駅前と北側、南側の3ブロックにわけると実感した。
- ・改めて住宅というよりも、例えば、県有施設の建て替えや県外から人が呼べる案がよい。
- ・例えば立山を借景としてウォーキングができる公園、ここにわざわざ来てスポーツをする場もよいのではないか。
- ・富山市の考え方を踏まえると、案2'か案3の方向がよいのではないか。
- ・利便性を考えて、アクセス道路やパークアンドライド駐車場を整備すべき、また、ライダーバスなど交通結節機能の強化が必要。
- ・通学利用が多い駅なので、図書館など学習機能を持った施設があればよい。
- ・基本的にはコンパクトシティの考え方と思うが、一つプラスするとすれば、楽しい目的を持って来られるものが欲しい。
- ・複合用途地区としての利用がよいと考える。駅近くに住宅地を広げ、商業、パークアンドライド駐車場など機能を使い分ける方がよい。
- ・非常に広大なところであり、ある程度、段階開発のイメージも必要。将来の変化に耐えられる余地の部分も必要ではないか。

2-2 モデル地区②（高岡）

- ・将来的には、国道8号に繋がる道路があれば、駅の利用価値が非常に大きくなるのではないかと思う。
- ・モデル地区の南側は市街化区域と市街化調整区域の境界が不整形なので、できれば下伏間江福田線まで市街化区域を広げ、下伏間江福田線沿線は商業系の用途とし、既存の住宅ゾーンと効率よく組み合わせる考え方が必要ではないか。
- ・駅周辺の魅力を高める仕組みづくりが必要。周辺の方々の買い物等の利便性や、コミュニティバスなど地域の交通の利便性を考えておく必要がある。8割が30~40代で子供が増える場所ということも踏まえ駅との関連性を考えるべき。また、居住者の勤務地が、この周辺なのか、富山市などもっと広域かを想定しておくべき。
- ・子育て環境の整ったまちづくりが必要。例えば、子育て支援センターや保育園、幼稚園に行っていない子供を連れて遊べる場所、会合に使えるフリースペースなどは、若い人から選ばれるまちの一つの要素となると思う。周りと競合しないものを

考えていく必要があると思う。

- ・富山では賃貸住宅を選択する人はあまり多くないと思われるので、人口の平準化をハードだけで考えるのではなく、戸建て住宅のリノベーションによる住み替えを図るなどのソフト事業も選択肢に入れて、現実的な選ばれる住宅地とする必要があると思う。

2-3 モデル地区③（射水）

- ・この辺りは自然も豊かなまちであり、また、県立大など研究機能があるので、再生エネルギーや環境ビジネスなどの新たな事業開発により、エコロジカルなまちづくりを目指したらどうか。
- ・住宅地としても環境に配慮した、パッシブ住宅のようなコンセプトも合致するのではないか。また、新たな事務所の開設も呼び起こせるのではないか。
- ・小杉インターパークについては新たな物流拠点も立地するので、もう少し道路を広げてはどうか。また、JET跡地については、既設の高圧線を考慮する必要がある。

3 アドバイザーのご意見

- ・2つの新駅を点としてとらえるのではなく、鉄道全体のネットワークとして考えていくことが必要ではないか。
- ・モデル地区①（富山）は、案3が一番よいと思う。パークアンドライド駐車場や送迎用のキスアンドライドは両方とも必要であり、これは細長い県有地等で十分対応できると思う。
- ・新駅にはインパクトがないともったいない。駅の付加価値を高める方法の1つとして、例えば、欧米にあるような「週末ハウス」を設けることを切り口にするなど、今までにやったことのないことを富山県で実施し、アピールすることも考えられる。
- ・車で移動する習慣がある地元の方や高齢者を考慮すると、駅からの徒歩圏は500m以内が相当と考える。
- ・モデル地区②（高岡）は、高岡やぶなみ駅と新高岡駅、高岡駅との三角形で考えてまちづくりをする必要があると思う。
- ・モデル地区③（射水）は、これだけの研究、大学などの機能が集積しているので、世界から研究機関を誘致できるようPRすることで、付加価値を高めることが可能と考える。